

蒲郡 戦国歴史巡り之図



発行

令和五年二月

蒲郡市観光協会

電話〇五三三六八二五六



三河地方にゆかりの深い鶴殿氏・松平氏



戦国時代、蒲郡の一带を治めていたのは鶴殿氏という一族でした。鶴殿氏は紀伊半島の熊野地方から蒲郡へ渡ってきた一族で、上ノ郷城を本拠地として蒲郡を治めていました。鶴殿長持は今川氏の当主今川義元の妹を妻に迎えたことで鶴殿氏は今川氏と親戚関係になりました。今川氏の親戚となったことで、三河地域での鶴殿氏の立場も強まります。桶狭間の戦いで今川義元が討死した後、長持の子長照は三河統一を目指す家康に対して今川方として立ちはだかるも、上ノ郷城は攻められ落城、長照は討死し、長照の二人の子氏長と氏次は家康に捕らえられたのち、家康の正妻瀬名姫、嫡男信康、長女亀姫との人質交換で今川氏の元へ返されました。また、長照の妹にあたるお田鶴の方にはに曳馬城（浜松城）の城主をつとめ、家康と戦い討死したと伝えられています。このように家康に敗れた鶴殿氏ですが、鶴殿氏の一族である西郡の局は家康の側室となり、のちに相模（神奈川県）の大名である北条家に嫁いだ家康の次女督姫の母となりました。また、人質交換で今川氏の元へ返された氏長と氏次も今川氏が滅亡したのちは家康の家臣として活躍しました。

鶴殿氏家系図



鶴殿氏

長善 — 長将 — 長持

家康

督姫

長忠

西郡の局

長照

氏長

お田鶴の方

氏次



今川氏

氏親 — 義元 — 氏真



松平氏家系図

松平氏の三代目当主と言われている松平信光は自身の子を三河の各地に配置し、その結果、十八松平（十四松平とも）と呼ばれる数多くの分家が成立しました。徳川家康を輩出したのもそのうちの一つである安祥松平家です。蒲郡には竹谷松平家、形原松平家、五井松平家の三家が本拠地を設けていました。それぞれの松平家は徳川家康の元で天下統一を支える存在として各地を転戦して功績をあげ、江戸時代には大名・旗本として家名を存続させています。





永禄五年二月の合戦で家康方により城主鶉殿長照は討死しました。長照の死後は家康の義父にあたる久松俊勝(長家)がこの地を支配しました。矢倉場、殿市場などの地名が、往時の繁栄を今に伝えます。



忍により火が放たれ
混乱の内に落城す

上ノ郷城跡

戦国時代蒲郡に勢力を有していた鶉殿氏の本拠地です。当時は周囲を断崖に囲まれ、隣を流れる兼京川を堀として使用した天然の要害でした。鶉殿氏は、今川氏の親戚であったことから三河統一を目指す徳川家康(当時は松平元康)と対立し、落城に時間がかかることを見かねた元康が忍者を城内に放ち放火、その混乱に乗じて攻め落としたと伝わります。



戦火により消失した
鶉殿家の菩提寺長応寺跡

正行院(長応寺跡)

鶉殿氏の宗家に当たる上ノ郷鶉殿家の菩提寺である長応寺がかつて存在した場所に位置する寺院です。境内に鶉殿一族の霊をまつた石碑があります。



鶉殿長照安息の地

鶉殿長照の墓

上ノ郷城落城時の城主であった鶉殿長照の墓。長照は上ノ郷城が落城した際に討死しました。長照の子は捕らえられ、今川氏に返される代わりとして当時人質として今川家に預けられていた元康の正妻瀬名姫、嫡男信康、長女亀姫が元康の元に戻されました。



鶉殿長照が討ち取られた
怨念の残る坂

鶉殿坂

上ノ郷城が落城した際、城主の鶉殿長照が敗走したがこの坂で転んだところで討ち取られたと言われています。鶉殿長照の怨念によりこの坂で転び、怪我をするという伝説があります。



上ノ郷城攻めの際、家康が陣を敷いたと言われている山です。白龍池から聖山に登るハイキングコースの中腹に、家康が腰をかけたと言われている腰掛岩(つくね岩)も残されています。

名取山 腰掛岩

上ノ郷城攻めを指揮した家康が腰掛けた岩

蒲郡 戦国歴史巡り之図

がまごおり



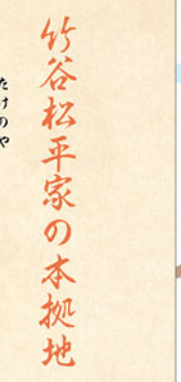
鶴殿長存の名を冠した法華宗寺院
長存寺
 鶴殿氏の分家である下ノ郷鶴殿家の菩提寺です。法華宗門流の寺院で、下ノ郷鶴殿家は熱心な法華信者でした。元は実相坊という名称でしたが、鶴殿長存が帰依し、没後長存寺と改称されました。下ノ郷鶴殿家は徳川方についてため滅ぼされず、家康の関東移封に従い関東へ移封されました。



亡くなった妻を悼む家清の想いが込められた慈しみ深い曹洞宗寺院
天桂院
 竹谷松平家の菩提寺です。寺の名前は家康の異兄妹で当時の竹谷松平家当主であった松平家清の正妻のおきんの方の法名(死後のおくり名)です。おきんの方は、出産時に亡くなり、その死を悼んだ家清により建てられました。



家康の実母、於大の方が二年間過ごした浄土宗の寺院
安楽寺
 家康の生母於大の方の再婚相手である久松俊勝(長家)の菩提寺です。久松俊勝の没後、於大の方(伝通院)が二年間居住したと言われていました。山門は市内最大で、宝暦二年(一七五二年)に造営されたものです。「市指定有形文化財」に指定されています。



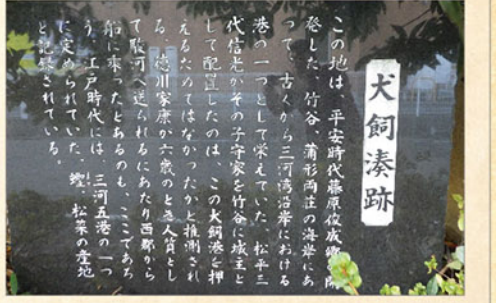
竹谷松平家の本拠地
竹谷城跡
 松平信光の長男守家を祖とする竹谷松平家の居城です。虎口(城の入口)と土塁の跡、主郭を含めた2つの曲輪とそれを結ぶ空堀が残ります。



電動アシスト付き自転車
 借りてゆかりの地を散策



旅行者の方に、ぐるチャリ(電動アシスト付き自転車)を貸し出してあります。小回りがあり、きススイと走るぐるチャリで、潮騒を感じながら蒲郡市内の観光を楽しんでください。
 ナビテラス(蒲郡市観光交流センター) 蒲郡市元町一・三 蒲郡駅改札口前にて貸し出ししております。



波瀾万丈の船出の地
犬飼湊
 幼少期の徳川家康が駿河の今川義元の元へ人質として赴く際、この港から出発したと言われていました。犬飼湊は三河五港(犬飼、瀨塚、伊勢、御馬)の一つで、三河周辺地域(瀨美、伊勢、志摩)などとの交易港となっていました。



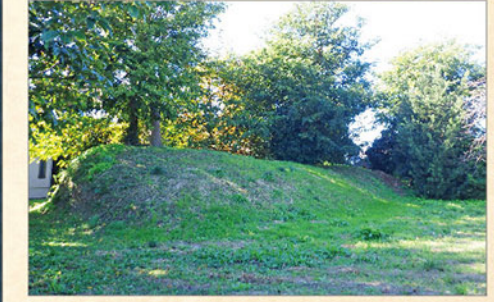
旅の折額を願う 足袋の形をした石
拾石神社のたび石
 深溝松平家の当主である松平家忠が浜松の家康の元へ向かう際必ず立ち寄り安全祈願をしていたという伝承の残る石です。それから人々はこれを「たび石」と呼び、旅立ちの際おまじりをして旅の平穩無事を祈願したと伝えられます。



形原松平家の本拠地
形原城跡(相生城)
 松平信光の四男与副を祖とする形原松平家の居城です。曲輪の痕跡が残ります。当時は三方を海に囲まれた天然の要害であったと伝えられています。形原松平氏は、初め今川氏に属していましたが後に徳川氏に従います。そのため、人質として今川氏に出された松平家広の妻子が、見せしめとして形原城下稲生浜で申斬しに殺害されました。



五井松平氏の菩提寺
長泉寺
 長泉寺は五井松平氏の菩提寺で曹洞宗の寺院です。境内には、五井松平氏五代(忠景・元心・信長・忠次・景忠)のお墓があります。五井松平家は関東移封後、江戸城や市中を火災から守る役目を歴代担っておりました。また、源頼朝の側近で三河国守護である安達盛長のお墓もあります。



江戸期竹谷松平家の本拠地
蒲形陣屋(蒲形城・下ノ郷城)
 竹谷松平家が江戸時代に蒲郡を支配した際の居館です。土塁が残存するとともに、蒲郡市博物館に大手門と伝えられる門が移転され保存されています。文化十五年(一八一八年)建造と推定されます。



蒲郡の原始から近代までを幅広く展示
蒲郡市博物館
 紀元前六千五百年頃より昭和に至るまでの蒲郡市の歴史を紹介し、市内の遺跡からの出土品や江戸時代の古文書を展示しています。



上ノ郷城の御城印の販売
上ノ郷城
 上ノ郷城の御城印の販売も行っています。おすとみかんの香りがするこでしか入手できない限定の御城印です。



上杉会津征伐の戦勝を祈願して
八百富神社
 八百富神社は三河国の国司であった藤原俊成が一八一一年に琵琶湖の竹生島から市村島薬師を勧請して成立した神社です。徳川家康が会津の上杉征伐に向かう途中立ち寄り、参拝したという伝承があります。



採石調達の名残を見る
名古屋城石垣採石跡地
 徳川家康は関ヶ原の戦いの後、豊臣恩顧の大名が豊臣方につかないよう財力を減らすことを目的として諸大名に名古屋城の建設工事を命令しました(天下普請)。蒲郡を含む三河湾沿岸は名古屋城の石垣を調達する場所であったと考えられており、竹島や西浦では石を割る際に矢を打ち込んだ跡(矢穴)が残る石を見ることが出来ます。



城郭用語集
 どのい 敵の攻撃を防ぐために土を盛って造成された土手のこと。
 土塁 土を掘って造成された防壁機能のこと。高低差をつけることで侵入しづらくする狙いがあります。水が張られたものを水堀、水が張られていないものを空堀といえます。
 堀 城の区画。場所によっては丘や山を人工的に平坦にして造成したのもあります。
 曲輪 城郭の曲輪のうち、天守など中枢機能が置かれた場所のこと。本丸ともいいます。
 主郭 城郭の曲輪のうち、天守など中枢機能が置かれた場所のこと。本丸ともいいます。



西尾市

豊橋市

豊川市

至聖橋

三河大塚

三河三谷

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

三河大塚

松平家 徳川家 鶴殿家 年表

- 1543 松平広忠・於大の方の子として竹千代（徳川家康）が岡崎城にて誕生（1542年説もあり）。
- 1547 **竹千代が人質として駿河の今川家の元へ送られる。この際、犬飼湊より出港したと伝わる。**
途中立ち寄った田原城で城主戸田康光の裏切りを合い、そのまま尾張の織田家の元へ人質として送られる。
- 1549 松平広忠が死去する。
織田信秀（織田信長の父）の子、織田信広との人質交換で竹千代が今川義元の元へ送られる。
- 1555 竹千代元服、松平元信を名乗る。
- 1558 松平元信、松平元康に改名。
- 1560 **鶴殿長照、今川義元の尾張侵攻で先鋒を務める。前線である大高城（名古屋市）に入城するも、城内の兵糧が不足し今川義元に兵糧の運び入れを要請し、元康が兵糧運び入れの役目を果たす。桶狭間の戦いが起こる。今川義元が討死。**
- 1561 元康、今川氏の東三河の拠点であった牛久保城（豊川市）を攻撃。今川氏から独立の意思を明確にする。
- 1562 **元康、今川氏の親戚であった鶴殿長照の上ノ郷城を攻める。当初は上ノ郷城が堅城で攻撃を防いでいたが、落城しないことを見かねた元康が忍者を城内に放ち放火、その混乱に乗じて上ノ郷城が攻め落とされ、鶴殿長照は討死。**
長照の子、氏長・氏次が捕らえられる。氏長と氏次を今川氏に返還する代わりとして今川氏の元へ人質として預けられていた元康の妻瀬名姫、長男信康、長女亀姫が元康の元に戻る。
久松俊勝（長家とも。於大の方の再婚相手）が上ノ郷城の城主に任命される。
- 1563 松平元康、松平家康に改名。
- 1565 鶴殿氏一族の西部の局、家康の次女にあたる督姫を出産。
- 1566 松平家康、徳川家康に改姓。
- 1568 家康、遠江（静岡西部）攻めを開始する。
曳馬城（のちの浜松城）の城主を努めていたお田鶴の方（鶴殿長照の妹）、家康からの降伏要請を断り曳馬城で討死。
- 1575 織田・徳川連合軍と甲斐（山梨県）の武田氏との間で長篠の戦いが起こる。
五井松平家の景忠・伊直親子、長篠城（新城市）に籠城し武田軍から城を守り抜く。
- 1582 本能寺の変が起こり明智光秀に織田信長が討たれる。
当時堺（大阪府）を見物中であった家康は三河に逃れる（伊賀越え）。
- 1583 家康、相模（神奈川県）の北条氏と同盟を結ぶ。
同盟の証として督姫が北条氏の5代目当主北条氏直と婚姻する。
- 1584 家康と豊臣秀吉との間で小牧・長久手の戦いが起こる。
形原松平家の家信、秀吉方の剛勇の者を討ち取り家康にその功績を称えられる。
- 1587 **久松俊勝（長家）が死去する。於大の方は安楽寺にて剃髪し、2年程度住んでいたと伝わる。**
- 1590 豊臣秀吉が相模（神奈川県）の北条氏攻めを行う（小田原征伐）。家康も従軍し、その功績により関東に移封される。
上ノ郷城主であった久松氏、下総国（千葉県）関宿に移封される。久松氏の移封に伴い上ノ郷城が廃城になる。
竹谷松平家が武蔵国（埼玉県）八幡山に移封される。
形原松平家が上総国（千葉県）五井に移封される。
五井松平家が下総国（千葉県）飯沼に移封される。
- 1591 北条氏直が死去し、督姫が家康の元に戻る。
- 1594 督姫、秀吉の仲介によって吉田城（豊橋市）の城主であった池田輝政に再嫁する。
- 1598 豊臣秀吉が死去する。
- 1600 家康、会津（福島県）の上杉氏征伐に出陣する。
その道中で竹島に立ち寄ったとの伝承がある。
石田三成が徳川勢の籠城する伏見城を攻撃する（伏見城の戦い）。伏見城は落城し、徳川勢の中にいた鶴殿長照の次男氏次が討死する。
関ヶ原の戦いが起こる。家康、石田三成を破る。
竹谷松平家の家清、関ヶ原の戦いの功績で吉田（豊橋市）の地を与えられ、吉田藩の初代藩主となる。
形原松平家の家信、関ヶ原の戦いの功績で再び形原の地を与えられる。
- 1615 家康、大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼす。
- 1616 徳川家康が死去する。